

資料4



令和6年2月7日 開催
第7回 広島県病院経営外部評価委員会
安芸津病院耐震化対応検討専門部会 資料

県立安芸津病院耐震化対応について

令和6年2月7日
広島県 病院事業局 県立病院課

目次

1 検討を保留した経緯	2
2 現在の状況	3
3 入院・外来患者数の推移(H29.4～)	4
4 基本構想(素案)の変更予定点	5

1 検討を保留した経緯

- 県立安芸津病院の旧棟は、現行の耐震基準(S56年施行)を満たしておらず、早急に対応を講じる必要がある。
- 第4回専門部会(R3.2.4)において耐震化対応方針を決定。第6回専門部会(R4.3.17)では90床新築移転を念頭に置いた基本構想(素案)を示し、各調整を進めることとしていた。
- しかし、新型コロナ等の影響により患者数が大幅に減少し、将来的な患者予測が極めて不透明な状況となったことを受けて、耐震化対応に係る検討を保留とした。
- 持続可能な病院経営に向け、患者数の回復に向けた取組を進めるとともに、適切な投資規模を判断するため、入院患者数の推移を見極めた上で、今後の耐震化対応の方向性を定めることとした。

〔参考〕耐震化対応方針(第4回専門部会(R3.2.4)決定)

- | | | |
|-------------------------------|---|---|
| ① 診療科
② 二次救急医療
③ 地域包括ケア | ▶ | 現行機能の維持を基本とし、人員体制の確保等に努める |
| ④ 施設(病床数含む) | ▶ | ・旧棟は廃止する
・新棟建替え(耐用年数)を見据えたものとする
・患者予測等を踏まえ病床数を段階的に見直す |
| ⑤ 設備(医療機器含む) | ▶ | MRIの整備等地域医療を支える機能の強化を検討する |

2 現在の状況

- これまでは、患者推計(パターン①)に基づき90床規模での耐震化対応を検討していたが、コロナ5類移行から約8か月が経過しても患者数は推計値を大きく下回る状況が続いている。
- そのため、今後は、より少ない病床規模での耐震化対応も検討することとし、令和6年度に基本構想・基本計画^(※)を策定する。
(※)病院の規模・機能、具体的な耐震化手法、建築費、運営経費の試算を行い、翌年度以降の基本設計の資料とするもの。
- 医療機能の強化、患者負担の軽減のため、令和6年度にオープンMRIを新たに導入する。

▽ 患者数の状況

区分	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5(~12月)
入院(人/日)	91.9人	78.5人	79.5人	72.9人	51.4人	47.9人	61.5人
(平均在院日数)	19.7日	19.6日	19.3日	18.7日	18.5日	15.8日	17.1日
(新規入院患者数)	1,192人	1,056人	1,112人	988人	830人	800人	742人 ^(※)
外来(人/日)	276.5人	265.5人	262.4人	219.0人	214.8人	209.2人	204.0人

(※)年換算 989人

▽ 過去算出した患者推計

推計	区分	R2	R7	R12	R17	R22	R27
パターン① (基本構想(素案))	入院(人/日)	91.3人	90.4人	85.3人	77.6人	69.6人	61.9人
	外来(人/日)	281.0人	262.9人	239.5人	213.6人	188.0人	162.7人
パターン② (リスクシナリオ)	入院(人/日)	85.3人	78.0人	68.4人	57.6人	47.7人	39.8人
	外来(人/日)	266.3人	239.8人	212.4人	185.2人	159.0人	137.2人

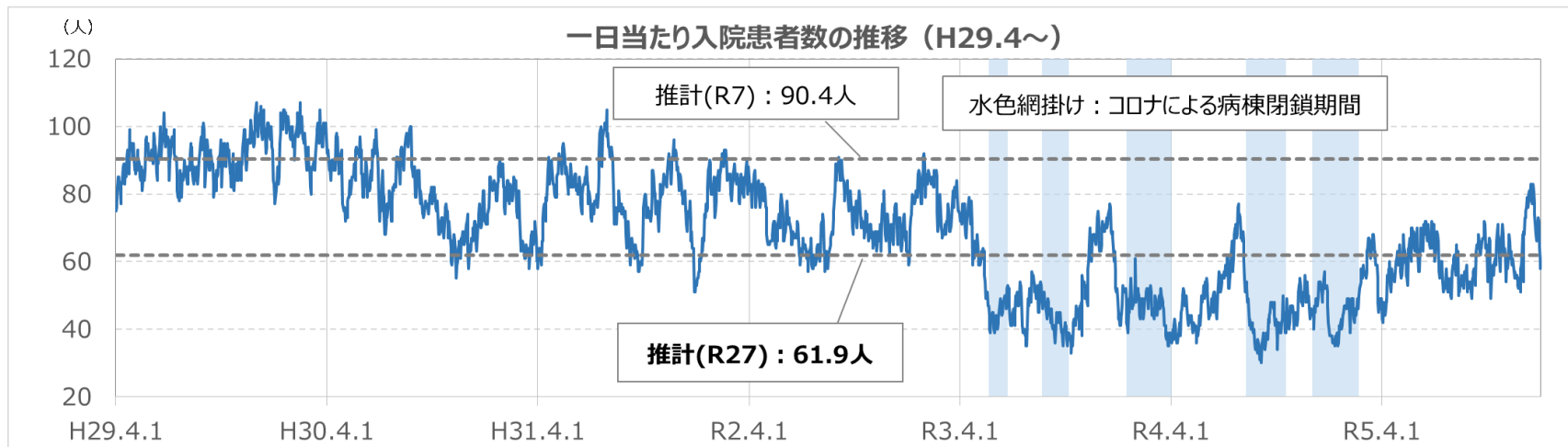
※パターン①:国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計(H30)と広島県の年齢階級別受療率等を基に算出(R元)

※パターン②:パターン①に、H28~R2近隣医療機関全体のうち安芸津病院の患者数割合の減少率を反映させて算出(R4)

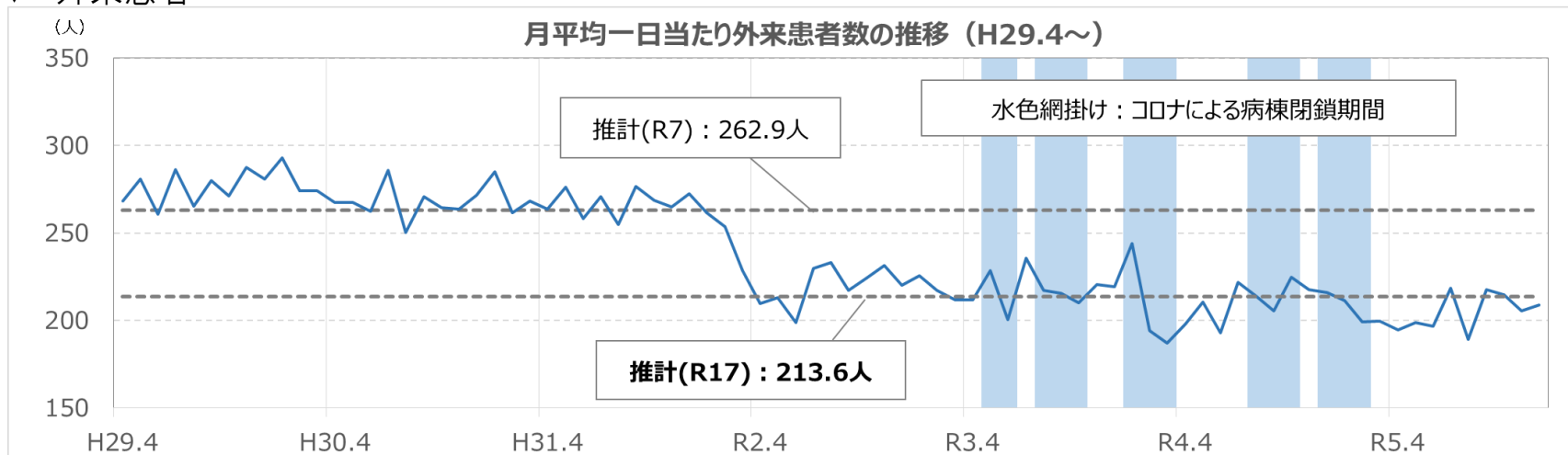
3 入院・外来患者数の推移(H29.4～)

- 入院・外来ともにコロナ禍で患者数が減少して以降、コロナ禍前の水準には回復していない。
- 過去(R元作成)の患者推計に照らすと、入院はR27、外来はR17の水準に近い数値となっている。

▽ 入院患者



▽ 外来患者



4 基本構想(素案)の変更予定点

第1章 県立安芸津病院の現状と課題	第2章 耐震化対応方針
<ul style="list-style-type: none">1 県立安芸津病院の概要2 建物の状況<ul style="list-style-type: none">(1) 建物及び土地の概要(2) 建物の現状及び耐震性3 災害対策<ul style="list-style-type: none">(1) ハザードマップの状況(2) 被災状況4 患者数<ul style="list-style-type: none">(1) 診療圏<u>(2) 人口の推移</u><u>(3) 将来推計人口</u><u>(4) 患者数の推移</u>5 診療機能<ul style="list-style-type: none">(1) 院内診療科の変遷<u>(2) 診療科別患者数の推移</u>(3) 病床数・病床機能の変遷(4) 周辺医療機関の状況6 収支<ul style="list-style-type: none"><u>(1) 経常収支の推移</u><u>(2) 収支分析</u>7 現状と課題の整理	<ul style="list-style-type: none">1 耐震化対応検討専門部会の経緯<u>2 耐震化対応方針の検討</u><ul style="list-style-type: none"><u>(1) 患者数</u><u>(2) 診療機能</u><u>(3) 建物の状況及び災害対策</u><u>(4) 収支改善</u><u>3 耐震化対応方針</u><u>4 総事業費</u><u>5 収支シミュレーション</u><u>6 スケジュール</u> <div data-bbox="1421 548 1818 682" style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p style="text-align: center;">患者動向を 踏まえて再検討</p></div> <div data-bbox="1010 922 1804 1105" style="border: 1px solid blue; padding: 10px; margin: 10px 0;"><p style="text-align: center;">✓ 耐震化対応の早期完了も観点の一つ として耐震化対応方針を決定する</p></div>